



友達になろう

BE A FRIEND

1994—95年度国際ロータリーのテーマ

- 国際ロータリー会長 ビル・ハントレー ●第2560地区ガバナー 大島 精次
- 会長——高橋 一夫 ●副会長——石橋 育於
- 幹事——五十嵐晋三 ●副幹事——松谷 昊吉
- SAA——平原 信行 ●副SAA——清水 良一 ●例会日——毎週水曜日 12:30～
- 例会場——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店 TEL 34-3311
- 事務局——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店 TEL 35-3477
- FAX 32-7095

出席者会員数

会員 79名中 56名

先々週出席率

95.95% (前年同期 90.14%)

ヴィジター

新潟中央より 木村正純さん

三条南より 清水鉄男さん、長谷川晴生さん

三条北より 外山晴一さん、本間建雄実さん、山上茂夫さん

ゲスト

いからしの里 園長 関塚倫也殿

先週のメイクアップ

2/9 燕へ 細井増雄さん

2/13 新潟北へ 渋谷健一さん

2/13 三条南へ 斎藤弘文さん、三堀正純さん、藤田紘一さん、近藤雄介さん

副会長挨拶

石橋副会長

何回目かのピンチヒッターとしての挨拶の機会を与えて下さった高橋会長に感謝いたします。

本日は、卓話をいただきます「いからしの里」の関塚倫也園長先生、お忙しい所有難うございます。また新潟中央RCの木村さん、三条南RCの清水さん、長谷川さん、三条北RCの外山さん、本間さん、山上さん、ようこそおいで下さいました。

先週は、職場例会ということで三条総合福祉センターの素晴らしい建物を見せていただきました。また、その前の2週がVIPにての例会でしたので、本日は久々の通常に戻った例会となります。

昨日は、月ヶ岡養護学校の卒業進級を祝う会に会長代理で出席してまいりました。本日ゲストの関塚先生をはじめ、三条南RC・三条北RCの会長や特殊の生徒をお預りしている学校の校長先生方が主賓としておいでになっておられました。今年は、小・中等部合せて25名が卒業ということでした。式典中は、例年以上に静かできちんとしており、私達がリボンを付けてあげると元気なお礼の言葉が返ってきました。引き続きレクリエーション、作品展の見学、アトラクションが行われましたが、伸び伸びと明るい生徒達をみて、本当にはのぼのとした気持ちになった次第です。

幹事報告 五十嵐(晋)幹事

◎新潟RCより 40周年記念式典のご案内がとどいております。

とき 4月9日(日) AM10:00~
ところ 新潟市民プラザ
登録料 15,000円

◎高崎北RCより クラブ会長エレクト研修セミナーのご案内がとどいております。

とき 4月15日(土) AM10:00~
ところ 高崎ビューホテル

ニコニコBOX ¥15,000 2月15日分

石橋さん 本日の卓話の講師として関塚所長さんをお迎えして。
藤田(説)さん 関塚所長を歓迎して。
藤田(紘)さん 誕生日のお花をありがとうございました。
榎本さん 私の不注意により怪我をして、永く欠席させていただきました。皆さまより心暖まる御見舞金を賜り、心から感謝申し上げます。
寺沢さん 13日の電信電話ユーザ協会主催の講演会、無事終了しました。ご出席いただいた皆様方、ありがとうございました。
佐藤(吉)さん 早退させていただきます。
斎藤さん 所用にて早退させていただきます。
渡辺(宏)さん 都合で早退します。関塚先生のお話、拝聴できず残念です。

山浦さん 関塚先生をお迎えして。お話を楽しみにしております。
渋谷(正)さん ひさしぶりに関塚先生のお顔を拝して。卓話楽しみにしております。
平原(信)さん 榎本会員の全快をよろこんでおります、ということで……。

卓話 出会い いからしの里園長 関塚倫也殿

出会いという題の中で私は、教育の窓から「いからしの里」の紹介をさせて頂き、そのあと不登校の子供達の訴え、いじめの問題についてお話しいたします。

私は、教育相談の内地留学から帰ってまいりまして、第3中学校の特殊学級の担任をすることになりました。この時の生徒の一人が、養護学校を出た女性と昨年めでたく結婚をし、私は媒酌の栄を与えて頂きました。先日、このお嫁さんとお話ししたら、楽しい生活をしているということで大変嬉しく思いました。ハンデを持った人のその部分をクローズアップしますと大変違ったような人



に見えますが、正直なところ知的ハンデを持った人も、或いは視覚、聴覚のハンデを持った人もトータルした丸ごとの人間として見た場合、何ら変わるところがありません。皆が「アッチェ、アッチェ」と言っている時に「サムイ、サムイ」とは決して言いません。皆が気分の良い時には一緒に喜んでくれます。

今日は「いからしの里」では、グループ行動の日といって、グループ毎に「ボエム」さんや「マリンピア水族館」に行っています。もう一週間前から喜々として待ち、昨夜も出掛けるのが楽しみで先を争って協力し合い、大変良い晩であったという報告がありました。やはり、知的ハンデを持った人達も何とか皆さんと一緒に仲間入りをしながら本当にのびのびとした生活をしたいという願いがひとしおです。実は、いからし和紙が皆様のご協力で大変沢山使って頂き園生も張り切っております。

又、竹工班の作品も好評で、大事にして頂いて、その話をすると本当に喜んでくれます。それもそのはずなのですが、全く2時間余もコツコツと竹にヤスリをかけている訳です。その姿に合掌の思いで、「頑張ってるね」と、それ以外の言葉が出てこない位、頑張ってくれています。その人達、残念ながら排便や食事の自立ができない人もいます。

今、私が一緒に生活している園生の皆さんからいろんなことを教えられ、パワーをもらいながら日々を過ごさせて頂いております。これも手前味噌ではありますが、12月27日、大変優良施設として、天皇陛下から認められて「金員」^{キンイン}を頂きました。これも日頃、ロータリアンの皆さま、行政、地域の方々の温かいご指導、ご協力の賜と感謝いたしております。

す。

次に、不登校のことですが、私は教職にありました時から、不登校の子供たち、教育相談、非行や問題生徒のカウンセリングをさせていただいておりました。今も何人かの中学生と接していますが、彼等は色々なことを伝えてくれます。相当数の子供達と接してきた中で印象的なのは、一年半不登校だった人との出会いがあります。最初の会話が「先生、俺は登校拒否ではないよ。学級の騒音、あのやかましさにはついていけないから学校に行かないんだ」「おー、そうか。じゃあ、都合がいたらウチへ来て一緒に本を読むかね」。こうして接してきた彼が定時制高校に進学し、皆勤賞、席次2番の通知表を見せに来てくれた時には大感激でした。

不登校の場合に、学校現場から考えさせられるのは、社会があって家庭があって本人がいて、3つの輪の接点の部分に原因があるらしい。ところが、学校関係者は得てして家庭に問題があるのではないかと、という聴診器があたり易い。保護者の立場からするとどうしても、これは学校に原因があるのではないかと。そういう犯人捜しをしていると、なかなか解決がつかないということを身を持って体験させられました。色々なわだかまりの中で、不登校という1つの現象があり、一概に論じることは出来ませんが、敢えて申し上げますと、学校は学校に問題はないか、保護者の立場からはわが家に何か欠落したことはないのかというお互いに謙虚なものを見方をすることが、子供達への温かい思いやりになるのだと思います。

不登校、登校拒否の現象の特徴的なことは、兄弟の数、子供の数が少なくなってきてから目についてきていることと、消費者の物価指数の高まりと共に増えてきたことです。一つの特効薬として「やった」「出来た」という成就感、達成感を沢山体験してもらうことが決め手になるようです。そして急いでもどうにもならない感じがします。学校の方も「教える」「育てる」ということがクローズアップされて一生懸命やっているが、別の観点から「教わる」「育つ」という面で欠落しているところがあるように感じます。学校へ行くことが楽しくなるような雰囲気作りが大事なのですが、ただ学校はダメだといっても良くはならず、学校は毒にもなるし薬にもなる、或いは、毒もあるし薬もあるという見方も大切なことです。私が接してきた人の中には、NHK学園に入っている人もいますし、1年予備校に行ってから高校に入学したケースもあり、不登校は子供が成長していく過程での回り道、大人になる為の1つのステップなんだという位の心のゆとりがなければならぬのではないのでしょうか。皆様のような方々が地域社会のネットワーク作りの中でこのようなことをお考え頂ければ大変有難いことです。

最後に、いじめについてです。1960年代は学生が反乱して、フーテン族化、暴走族、粗暴犯、集団非行、学生はキャンパスで、若者は街頭で暴れていたようであります。1970年代は対暴力が両親や学校に向けられ、薬物やシンナー遊びがいわれました。1980年代は同

じ校内暴力でも対教師から生徒同士に暴力が浮上してきている。

いじめ対策がある程度成功すると、今度は攻撃は中に向かってきていると、大雑把にそんな経緯をたどってきているようです。

今は大きな境界線の喪失、例えば大人と子供、男と女、先生と生徒、良いことと悪いこと、黒と白、右と左などの境界線の喪失に病理の原因があるというようにまとめられているようです。

いじめの陰湿化がいわれ、いじめの動機が屈折しており、冷酷で残忍であるといわれています。

今いじめで気になるのは、いじめている人といじめられている人に優劣が常についている。又、いじめられつついじめに入っている。この辺に病理の根深さがあるといわれます。

動物学者は脊椎動物には皆いじめがあるといっている。ニワトリ、猿の例で見ると動物にはそういう本能がある。人間の場合は、道徳的な規範、宗教的なバックボーンが規範となっていると考えられる。

これから子育てには「耐性」がまんする力、「人のために奉仕する心」、これらが子ども達の順調な成長のために必要な条件になるのではと思っています。

学校教育、道徳教育など教育現場でも考えていかなければと思っています。

三条RC	2月22日例会	卓話	ロータリー財団学生帰国報告	古沢有峰殿
	3月1日例会	卓話	荻根沢隆雄殿	
	3月8日例会	卓話	高橋一夫会員	
三条南RC	2月27日例会	卓話	三原徹夫会員	
	3月6日例会	雪と酒とフラメンコの夕べ	於 新潟スプリングス三条コース	
	3月13日例会	卓話	白倉修三会員	
三条北RC	2月28日例会	卓話	丸山誠一会員	
	3月7日例会	夫人同伴パーティー		
	3月14日例会	卓話	斎藤会員、山口会員	

